
ガラナスパーク乙女・斬

もち武者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガラナスパーク乙女・斬

【Nコード】

N6248S

【作者名】

もち武者

【あらすじ】

町に蔓延る悪党を

正義の名の元叩いて砕く！

謎の二人組、その名は

「ガラナスパーク乙女・斬」！

不幸体質な主人公と破天荒型ヒロイン×2が送る、馬鹿と冗談のスペクタクル超駄作！

君は今、真の悪ふざけを目撃する！

煩惱人型欠陥兵器見参！&l t・前編& g t；（前書き）

ご閲覧上の注意

本作品は前後不覚の支離滅裂な物語となっております。

摂取量を誤ると、頭が悪くなる恐れがあります。くれぐれも閲覧の際はご注意ください。

ご利用は計画的に。

煩惱人型欠陥兵器見参！&1t・前編>

「ギイヤアアー！」

なんで、どうして？

なんで私はいつもこんな目にあうの？

「変態が！変態があ！」

ブリーフ一丁のマスクマンが！

タクアン片手に追いかけて来る！

「さあさあお嬢さん、観念してサフラン色に染まるのだ！
そして俺の性的欲求を満たすがいい！」

私の名前は巻^{マキ}困^{コナ} 麗^{レナ}奈。

他人が引くほどの不幸体質で、変態遭遇率は世界一ではないかと自負しています。

ご覧の通り、今日も今日とてエンカウント。
只今絶賛逃走中です。

「怖がる必要は全く無い！

ただちよつとタクアンでドツキ回された悲惨な様を穴が空くほど視姦させてくれればいいんだ！

舐めたり噛んだりしないから！さあ！」

「嫌ああああ！」

怖い！十二分に怖い！

一体何フエチなんですか、ソレ！

「指一本触れない！

私は紳士だからな！」

そんなジェントル有り得ませんから！

それがスタンダードなら怖くて英国に行けない！

「きゃう！」

石につまづき盛大に転んでしまいました。

ああ眼鏡が！眼鏡眼鏡！

「ふっふふふ、おいかけっこはおしまいだ、お嬢さん。

さあ、着色料にその白い肌を汚されるがいい！」

よく見えませんが、息の荒い人影が手にしたタクアンを振り上げ、
ジリジリ迫って来ます。

「助けて！助けて下さーい！」

シパン！

空を切る音。

ボトリと何かの落ちる音。

指に触れた眼鏡を慌てかけると、変態マスクマンのタクアンが根本から切り落とされていました。

「誰だ！このストレス社会を堪え忍んで生きる俺の唯一の楽しみを邪魔するやつは！」

何てはた迷惑な！

バッティングセンター辺りで発散してください！

「誰だとはなんだ！

尋ねる前に察しろ！」

どこからか声が響いてきます。

「考えるな、感じる！」

違う方角から別の声が。なんだかよくわかりませんが、助かったんですか？私！

「とう！」

刹那、頭上で交差する2つの黒い影。

「そこまでだジェネルメン変質者！」

「ぐえ！」

ちよっ！ちよっと！

「過ぎた性欲は身を滅ぼすぜ！」

「きう！」

死ぬ！死んじゃう！

「あれ？幸薄地味眼鏡がない！」

います！いますよ！

お願い気付いて！

「あつ。そういえばアタクシ、今日の日課の四回転ターンの練習を忘れてたぜ！」

「死iiiiiiii！」

止めてえええ！

足元！踏んでますから！

「とにかくにもそこなぱんつメン！

貴様の命日は今日だ！」「月の裏側見せちゃう・ぜ！？」

私の上でポーズを決める二人組。

お願いですから余所でやって下さい。

ああ、お昼ごはんが出てきそう。

「何者だ、女子高生！」

あれ？何だか視界が狭く・・・。

「何！？なぜあたしたちが女子高生だとわかった！？」

ふふふ・・・綺麗なお花畑・・・。

「その制服は汁濡高校のものだろう！すでに近隣の女子高生の制服はチェック済みだ！」

あれ？おばあちゃん！

3年前に死んだハズじゃなかったの？

ううん、そんなことどうでもいいや！

おばあちゃん！

「ぎゃ！？アルミ！変身してないできてない！」「ブルータス！お前もだ！」

おばあちゃん！おばあちゃん！

・・・え？来ちゃダメ？どうして？

「第一話から正体丸出し？

嫌！お嫁に行けない！」

「モザイク！モザイク早く！

あ！テメエ！何見てんだ！

見せ物じゃねえんだよ！」

あ！待って！行かないでおばあちゃん！

「・・・そろそろどいてやらんとお嬢さん死ぬんじゃないか？
顔色がプルプル入りすぎた唇みたいになっているぞ・・・？」

「何言ってるん

うわあ！人の足元でなにしてたテメエ！」

「さては貴様も変態か！？」

は！私は一体・・・！

「あれか？踏まれて興奮する達か？

それとも前世が絨毯かなんかなのか？」

「どちらにしても気持ち悪！

アタイの踵にキスしな！」

降り下ろされる踵。

ひああ！危ない！

「勝手に踏みつけといてトドメをさすとは何事ですか！
鬼？悪魔？それとも妖怪の類いですか！？」

アスファルトが砕けてるってどんだけ殺る気満々なんですか！

「そういえば名乗ってなかった！

私はアルミ！」

「私はミカン！」

二人が背中合わせてポーズを決めていますけど・・・、お互い思いの決めポーズではつきり言ってバランスが悪いです。

「ガラナスパーク乙女・ざ」

「ん！」

台詞もバランス悪！

「おいおいアルミちゃん！

アルミちゃんは『ガラナ』、アタシは『スパーク』二人で『乙女・斬！』つー振り分けだったじゃん！

なんでほとんど言っちゃうワケ！？」

「ふはははは！

要はノリとタイミング！ヒロインは私だ！」

「汚ねえ！小汚ねえ！

貴様の根性はドブ色だ！」

「つか、こないだの時はミカンが全部言っちゃっただろう！おかげで私は『うん。』って言っちゃったんだぞ！」

険悪なムードで睨み合う二人。

何しに来たんだろう、この子達。

「よっし、取り敢えず一子相伝の暗殺拳をくれてやる！
俺との愛を守るためお前は旅立て！」

「君が泣いても殴るのを止めない！」

無数の拳を放って殴り合う女子高生。ナニコレ？
って、あれ？これって逃げ出すチャンスなんじゃないですか！？

「ってあれ？これって卑猥するチャンスなんじゃ！？」

うへえ！変態マスクも気付いてしまった様です！

「おっ嬢さ〜ん！このタクワンを一本まるごとくわえて黄色い汁を
たらしながら上目遣いで・・・駄目だ、ロマンティックがとまらない！」

「きゃああああ！」

誰か！猥褻行為！と・め・てえ！
ロマンティック

「オラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオ
ラオラオラオラア！」

「無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄
無駄無駄無駄無駄！」

駄目だ、あの二人はあてに出来ない！

「こんなところに偶然幸水が！」

えーい！」

「あんぐいしやす！」

たまたま転がっていた季節外れの梨をタクワンぱんつ目掛けて力一杯投げつけました。

どうやら命中したようです。

「俺の！俺の大事な潜水艦が！
うううゝ、お母さゝん！」

こうかはばつぐんだ！

体をくの時に曲げて悶絶しています。
でもどうしてあんなにダメージを？

もしかして毒梨？

「お、おによれゝ！大人しく漬物にまみれていれば死なずに済んだものを・・・！」

え？うそ！殺される！？何か状況が悪化したみたいです！

「大の大人の本気のイタヅラを魅せてやる！
このふざけた時代へようこそ！」
「ぎゃあああああ！？」

タフボーイが！

どこからともなくタクワンを取り出し両手に構えたタフボーイがああああ！

「ストップ・ザ・迷惑防止条例違反！」
「ぼぶさつぷ！！！」

飛び上がり私との間合いを一気に詰めようとした漬物由来の変態を華麗な飛び蹴りでカットした、えっとたしかアルミちゃん。

黒髪長髪で高身長、同性でもドキツとするような美人さんです。
・・・血塗れじゃなければですが。

「貴様だけは許さん！散って逝ったミカンの為にも、盛大に血祭りにあげてやる！」

え？散って逝ったって

「にやああああ！」

吊るされてる！何かの肉塊が木に吊るされてる！

まさかアレが？アレが元ミカンちゃんなんですか？

「お前！ひ、人殺しはいけないコトなんだぞ！これだからゲーム脳は怖いんだ！」

「クリリンの事がああああ！」

クリリンの事じゃないです！

アルミちゃん、あなたの事です！

って言うか、変態行為もいけないコトだと思いますけど・・・。

「決定！ミカンを殺った犯人はお前だ！

真実はいつも一つ！」

「いやいやいやいやいやいや、何いってんだよ真犯人！」

うわあ、まさかの擦り付け！

なんか私も目撃者として消されてもおかしくない気がしてきました。

「俺のこの手が真っ赤に燃えて！

お前を倒せと轟き叫ぶ！

くらえ！

シャーイニング！

ポン刀！」

すらりと引き抜いた日本刀でぱんつまスクに斬りかかるアルミちゃん。

怖っ！

近頃の女子高生怖っ！

「危っ！こら！お前！その、なんだ！お前！こら！」

「血が、血が見てえんだよおおおお！」

妖刀だ！

近頃の妖刀怖っ！

「今宵の虎鉄は愛に飢えておる・・・！
悲しいけれど終わりにしよう！
キリがないから！」

「嫌だ！助けてドラえもん！」

鋭い太刀筋で迫る女子高生と涙目で逃げ惑う変態。

ナニコレ？夢？

「秘剣！安部定切り！」「らめえ！女の子になっちゃう！」

心なしか剣劇が近くなってきたような・・・。

チュイン！

頬に熱を感じて触れてみると、あ！血が！

なんじゃこりゃあ！
につ逃げなきや！

「助けてお嬢さん！」
「ほうわ！」

いつの間にかぱんつな変質者が背後に！

やめろー！私を盾に、やめろー！

「墜ちろ！カトンボオ！」「ぎゃあああああああ！」

迫り来る白刃に透けて見えるおばあちゃん。

今、逢いに逝きます！

煩惱人型欠陥兵器見参！&l t・後編& g t；（前書き）

前回のあらすじ

（対忙しい人編）

メガネがタクワンでやられそうな時に二人組の女子高生が切った。
あとなんかそのうち一人が死んだ。
そんなお話。

「死ね、死ぬんだ！貴様が死ねば世界は私の物だああ！」
いつの間にそんな展開に！？

「させるか！

必殺！ 回転スピニングターン大車輪！」
力の限り回転するミカンちゃん。

ぎえええええ！

グロいグロいグロすぎです！

例えるならかき氷！

いろんな赤い物が宙を舞っ

くしばらく お待ちください！

ミカンちゃんが赤い池を残して消えてなくなりました・・・。

第一話から前後編二回に分けて二度死ぬヒロインはたぶん史上初じゃないかと・・・。

アルミちゃんと言うと、一仕事終えたといったような良い笑顔を浮かべながら返り血よりも物質的な返り肉塊を払っています。

ふと、その内のひとつを手に取り、驚いたような表情になるアルミちゃん。

「この小腸はミカンの！まさか、私が！？」

小腸で！？

「・・・うん。ドンマイ私！こんなこと石川県じゃ日常茶飯事だ！」

「ポジティブ過ぎる！謝れ！今すぐ石川県民に謝れ！」

そんな殺伐とした県あつてたまるか！

「何だか分からんが、今がチャンス！

お嬢さん！タク」「ええい！ツツコミの邪魔ですから！」

「本日二度目のサン・アタック！？」

たまたま足元に転がっていたドリアンを変態マスクに投げつけました。

「股間のジェントルが燃えるようだ！」

こうかはばつぐんだ！

なにやら地面をゴロゴロ転がりながら悶絶しています。

なぜこんなにダメージを！？

まさか果物アレルギー？

「あああ！ク・ソ・ア・マアア！」

もう猥褻だけじゃこの怒りはおさまらん！

とびきりヒドイ事してあげちゃう！」

「ひい！なんでそんなに怒ってるんですかああ！？」

マスク・ド・変態の振り上げた拳が私のスネめがけてフルスイングで降り注がんとしています。

てか狙いが陰湿過ぎる！

「その時、歴史が動いたあ！」

「俺の恋人（右手）に痛恨の一撃！」

私のスネに拳が激突する寸前、どこからともなく鉄板が飛来し、覆面エロスの攻撃を遮りました。

「大丈夫か眼鏡の人！」

アルミちゃん！？

じゃない。アルミちゃんは玉ねぎを飴色になるまで炒めるのに手が放せない様だし。

・・・って人のピンチに何してるの？

じゃあ、まさか・・・！

「ミカンちゃん！」

そう、そこにはいるはずの無いミカンちゃんの姿が。

なぜ！？確かにさっきアルミちゃんのによってイチゴシロップになったはずじゃ！？「偶然ポケットに入ってた絹ごし豆腐がアタシを救ってくれたのさ！」

防御力低っ！

てかそれでどうこうなるレベルじゃない！

「ミカン！さっさとあのくそ虫を片付けるぞ！」「応ともさ！」

エプロンを投げ捨てアルミちゃんがミカンちゃんと肩を並べる。

いいの？二回も殺されてお咎めなしでいいの？
本当に石川では普通のことだったの？

「ここで乙女の7つ道具！

RPG7（なんかスゴいの）！」

「同じく乙女の7つ道具！」

グレネードランチャー（なんかゴツいの）！」

いやいやいやいや！

跡形もなく木っ端微塵になっちゃいますよ！

あと、十中八九私巻き込まれます！

「もうなんかドカーンのバボーンで片しちゃおうよ。」

「それもそうだな、めんどいし。」

投げやらないで下さい！さっきまでの無駄なやる気はどこに消えたんですか！

「ききき貴様ら！こっちには人質が」「撃ち方用ゝ意！」

いっこうに構わないだろう！？

「待って下さい！私まだ死にたくない！」

「ええい往生際の悪い！大人しく正義の礎になれ！」

「君の勇姿は忘れない！」

駄目だ！引き金引かなきゃ収まりそうにない！

ああ、おばあちゃん。

本日三回目の登場ですね。

麗奈はもうじきそちらに向かいます（涙）

「て言うかお前ら！」

名前に斬とかついてるのに重火器とは何だ！

さっきの日本刀はどこいった！」

あ、今変態さんが大事な事言いました！
大事な事言いましたよ！

「ふむ、確かに。」

「んじゃ、日本刀で殺っちゃうか。」

あっさり納得した二人は物騒極まりない黒光りする長くて太いものをスカートの中に・・・って

「何で入るの！？」

物理的に無理でしょ！？

四次元ぱんつ！？

「女の子には秘密のポケットがあるんじやい！」

私も女の子なんですけど！？

「じゃあ改めて」「ぶっ殺す！」

何処からともなく（四次元ぱんつ）取り出した日本刀を構える危険性は既に立証済みな二人。

対するはこちらも何処からともなく取り出した（四次元ぱんつ・・・）タクワンを両手に構える卑猥さ100%なマスクマン。

こんな珍妙なバトルの当事者なのかと思うと、なんだか泣けてきます。

「貴様はアタシの銘刀 菊一文字、略してきくもんの錆にしてやる

ぜ！」

その略称はらめえ！

「ターゲットが変わってしまったが仕方あるまい。

くられ！ストライク・ナバーム沢庵豪襲弾」

無駄にカッコいい技名を叫びながら飛び上がる猥褻仮面。

二人目掛けて降り注ぐ無数の漬物。

つて後ろから見て初めて気付きましたが、ぱんつの後ろ部分に黄色い染みが！

食べ物を粗末にし過ぎ！

「アルミちゃん！」「応！」

高い金属音と共に二人の周囲を銀色の剣線が走る。

放たれたタクワンが瞬時にスライスされ、食卓でよく見かけるあの状態になって地面に華を咲かせた。

「バカな！切り刻むはおろか、盛り付けまで完璧だと！？」

「貴様に1つ質問がある。」

刀の切っ先を突き付け、アルミちゃんが静かに言いました。

「貴様らのボスはどこにいる？」

「何のことだ！？」

ま・まさか、勤め先にチクるつもりか！？

アルミちゃんがまるで氷の様な目で変態の顔を覗きこんでいます。

不埒マスクはその目に圧倒されたのか、瞬きすらも忘れた風で固まっています。

「チツ、ハズレか。」

溜め息をつく二人。

・・・なにやら二人は巨大な悪と戦っているようです。

「そうと決まれば用はない、片付けるぞ、ミカン！」

「あいあいさー！」

ミカンちゃんが上段の構えをとり、その後方でアルミちゃんが居合
い抜きの構えをとりました。

「これで終わりだド変態！貴様は長く生きすぎた！」

「嫌！痛くしないで！」

一気に変態との間合いを詰める二人。

「必殺！ダブルエッジ・X《さすがターンAのお兄さん》！」

ミカンちゃんがすれ違い様に右肩から左の腰に抜ける斬撃を加えた
刹那、アルミちゃんが神速の抜き打ちで右下から左上に切り上げ。

描かれる“X”の軌道。

・・・和訳おかしくないですか？

「ぐああああ！」

あわわわわわ！

赤い噴水ギヤアアア！

さすがに殺しちゃマズイでしょ

「安心しろ。峰打ちだろうか？」

疑問形かい！

安心出来ませんよ！切れてる切れてる！

「峰打ちじゃありませんよ！ばつちり斬れてますって！」

嫌ああ！これって私も罪になるの？

あ、いやいや救急車！救急車を！

「そんなときはコーレー！」

ミカンちゃんが懷から自信満々に取り出したのは

絹ごし豆腐。

なんでやねーん！

なん！でや！ねーん！

「こいつをドーン！」

真っ青になってびくんびくんしているドスケベマスクの顔に叩きつけるミカンちゃん。

あはははは、
面白〜い、

あはは、あははは？（崩壊中）

「お母さ・・・はっ！ここは！？」

あははは！

い、生き返って、あははは！（続・崩壊中）

「まさか、命を救われるとはな・・・。

君らに救われたこの命、これからは人に迷惑をかけない変態になるよ。」

あははは！結局変態かーい！あははは！（絶賛崩壊中）

「うむ、これに」「これにて一件落着！」

「ああ！ミカン貴様！美味しいとこどり過ぎるだろう！」

あははは！殴りあってるあははは！「へぼう！」

両サイドからのコークスクリーによるきりもみ回転により目が覚めま「ふぎゃー！」

「眼鏡が・・・！」

「アスファルトですけきよみたいに・・・！」

よくわかりませんが、私、今腰から上が埋まっちゃってるみたいです。

「で、でわ、我々はこの辺で・・・。」

「ま、またなにかあったらよんでくれい！」

「~~~~~! (待って下さい! 助けて下さい!)」

それから三時間。

通行人が呼んで下さったレスキューに助けられるまで前衛的なモメントと化していました・・・。

もう・・・嫌・・・。

煩悩人型欠陥兵器見参！&l t・後編& g t；（後書き）

【登場人物】

巻困 麗奈

（マキコマ レナ）

20歳。（♀）

特に特徴らしい特徴はないが、何故か変態に好かれるミス残念。眼鏡。

呪われているとしか思えないくらいの不幸体質で、トラブルには必ず漏れ無く巻き込まれる。

あと眼鏡。

忘れてたけど、主人公。んで眼鏡。

もち武者

（クソムシ）

25歳。（Σ）

なんかよくわからない生き物。本当になんなんだろう。ホヤか何か？
叫びながら歌いながら建物を壊すのが仕事。（たぶん病気。）眼鏡。
知人友人、家族にいたるまで、彼の脳みその存在を否定している。
あと眼鏡。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6248s/>

ガラナスパーク乙女・斬

2011年10月8日19時12分発行